



Olio thya? (元気ですか。) 夏休みも終わり、みんな真っ黒になって2学期を迎えていることでしょうか。私も元気に過ごしています。ウガンダは8月16日から9月14日までが2学期休みなので、休みを利用してブシア県の田舎を訪ねたり、友達の家へ遊びに行ったりしました。そうねえ、本当は休み中のことを書きたいところだけれど、遊んでばかりいると思われては困るので(笑) まずは私が2学期にやったことを書きますね。

先生何やってるの?

1番始めに取り組んだことは「整理・整頓」です(とても日本人っぽいね)。これは職員室に入るとすぐに気になったことです。今は2008年だというのに、3年前の時間割表やカレンダー、2年前の教員名簿などが掲示されていたり、掲示物の上に掲示物をはってあったり、とても見にくいものでした。また、先生たちが使う棚が部屋の奥に置かれていてとても使いづらそうだったので棚の配置換えもし、教師ごとに箱に名前を書いてわかりやすくしました。

子どもたちのものも同じです。例えば各教室にホウキが1本あるのですが、それがなぜかすぐになくなる。そうすると子どもも大人もすぐに「誰かが盗んだ」という言い方をします。私はこれが嫌いです。だってホウキを戻す場所も決めてないし、ホウキにクラスの名前も書いていないのだから。それだったらどこへ返したらよいかわからなくてそのままになってしまいますよね。だから教室の壁に釘を打ちつけ、ホウキに名前を書いてぶらさげるようにしました(みんなの教室の掃除道具はきちんとそろっているかな)。



次に取り組んだのは、「時間割りの見直し」です。朝7時から(最高学年の7年生は6時から)授業をすることになっていましたが、半分以上の生徒は来ておらず、先生も遅刻してくる有様。できないのだったら無理にその時間にする必要はないのではと(夕方5時まで学校にいるのだから)、2度始業時間を変え、今は7時30分から開始となっています。

「清潔・清掃」にも取り組んでいるところです。7時登校という時間は変えず、掃除の時間にしました。そうするといつも遅れて来て掃除をしない生徒が出てきたので、当番を決めて放課後に掃除をするようになりました。教室は本当にきたないです。なぜか小さな紙くずが多いです。生徒がノートの端をちぎって床に散らかします。えんぴつを削るときもそのまま床に落とします。でも仕方がない、教室にゴミ箱がないのだから! 3学期は校長先生と話し合っってゴミ箱を準備したいと考えています。

もう一つ考えているのは、手を洗う場所がないことです。授業では食事の前やトイレの後は手を洗いましょうと習ってはいて知ってはいるのですが、実際に手を洗う場所がない。これもなんとかしたいな。

授業は3年生から7年生まで、週1回ずつ『体育』と『特別授業』の時間を作って教えました。2学期の体育は主に、整列、体操、そして30m走をしました。整列はちょっと日本的な考え方かなと迷ったのですが、集会のときなどに集まりやすいかと思って取り入れることにしました。ウガンダには体育の授業がないので私は号令のかけ声がわからず、「前ならえ」「気をつけ」など英語で説明した後そのまま日本語を使っています。だからかな、みんな私が言うとマネをして日本語を使い楽しそうにやってくれています(いつまで続くのかは疑問だけどね)。

体操は、ひざの屈伸やアキレス腱の柔軟などみんなが体育の授業の始めにやっているような準備体操です。最初のころは新しいのを教えるごとに「見て! 見て!」「これでいい?」と一人一人が聞いてくるので大変でした。体を回すときなんか、まるでマトリックスのようで笑えましたけど(通じない人ごめんなさい)。

30m走は前もって長い縄に5mずつ印をつけておいて、毎時間前石を使ってコースを作ります。ストップウォッチを使ってタイムも計りました。みんな走るのが大好きです。いつかグラウンドに1週コースを作ってリレーにも挑戦したいです。

体操服がないのが悩みです。馬とびや地面に直接座ってする柔軟体操などができないのが残念。特に女の子は走るのも走りにくそうなので。



特別授業は、主に「かけ算九九」の暗記に取り組みました。7年生になっても暗記していない生徒が多いことに驚いたからです。例えば「3×9」だと棒を横に3本書いてそれを縦に9回書いた後、その棒を数えています。もちろんそれでも良いですが、やはり算数は「早く、正確に」だもんね（と、先生方はみんなに言っているでしょう？）。

そのほかに、日本語を教えたり、日本について話をしたり、折り紙をしたりしました。アフリカ人の発音は日本人にとっても似ていると思います。日本語を教えるととても日本人に近いきれいな発音で返してくれます。この授業で教えた日本語の数え方「イチ、ニ、サン、シ」「ゴ、ロク、シチ、ハチ」で体育の時間体操をしています。

私の住んでいるブシアの町はサミア語が現地の言葉ですが、ケニアとの国境の町でもあるためスワヒリ語も使い、さらに学校では英語を使い、さらにさらにウガンダで1番多い民族の言葉ガンダ語もわかるようです（サミア語とガンダ語は似ているらしい）。

ほかにも理科や算数の授業に入って、T.T. ティーム・ティーチングのようなことをしました。

工夫していること・3学期に向けて・・・

工夫をしていることは、写真を見てわかるように、まずはとにかく現地にあるもので教材などを作って紹介していこうと心がけています。日本の小学校1年生で使っているお道具箱を見本にいくつかいただいたので、それを参考にして作っています。

3学期、体育はボールを使ってドッジボールやキックベースボールなどをしようと考えています。「ルールを守ること」の大切さに気づいてもらえたらと思います。

授業では、理科の実験道具を持ってきているので担当の先生と話し合いながら授業を作っていくと考えています。この学校に来てすぐに算数や理科の授業を担当して欲しいと言われましたが、私がそこに入ってしまうと現地の先生が1名雇われないことになるし、私が一人で授業をしても2年後には帰国することを考えると現地の先生と一緒に授業をしたいと思っていたので断りました（本当にお金がなくて困っている学校ならまだしも、私の学校は私立の学校なのかなんとかなのではないかと信じています）。ただなかなか担当の先生と授業について話し合う時間がありません。5時になると先生たちはすぐに帰ってしまうからです。

3学期はもっともっと先生たちと授業について話していけたらいいなと思っています。あとは、9月末に空手のできる隊員が来て空手教室を、10月始めに天体望遠鏡を使って月の観察を、10月末に日本へ行ったことのあるウガンダ人の青年の話を聞く時間を予定しています。

***** ウガンダの子どもの長期休み *****



休みの間は、いつもと違った子どもたちの生活姿を見ることができました。例えば学校を経営している校長先生の子も小学校3年のオドゥンド君は、朝7時前に起きて顔を洗うとすぐにクワを使って校庭の草抜きをします。お茶を飲んで仕事をするときもあれば何も口に入れずに仕事をするときもあります。



6年生、高校生2年生、高校4年生のお兄さんも6キロ離れた畑まで自転車で行き、種がまけるよう畑を耕し、12時ごろもどってきます。5年生と高校1年生のお姉さんも皿を洗った後校庭の草を抜き、11時ごろからお昼ご飯を作り始め、1時半ごろお昼ごはんを食べます。それが終わると次はピーナツの皮むいたり、とうもろこしの実を取ったりします。11時ごろにポレッジといって粉にした穀物をお湯でといたものを食べるときもあります。



そして、夕方4時か5時ごろやっと自由時間になります。でも女の子はこの後買い物へ行き、夕飯の支度をします。魚を買いに行くのは男の子の仕事のような気がしました。魚をさばくのもそうです。



ウガンダ人すべてがこのような生活ではありませんが、子どもたちは本当によく手伝いをしています。手伝いというより、自分たちの生活のためにやっているのだから仕事のようなものですね。

<編集後記>今回は私が2学期にやった活動を書いたけど、日本のみんなから見ると何も特別ではないように感じるかもね。そう、私もそう思う。ただこの先生のやり方でもいいんだけど(?)、もっとこうやったらよくなるんじゃないかな、楽になるんじゃないかな、っていうのを紹介していきたいと思っている(でも先生方も生徒が教科書を持っていない中、本当によくやっていると思う。教科書の文をひたすら黒板に写して)。自分にとって当たり前だと思っていることが当たり前ではないことってたくさんあるんだよね。私はウガンダの良いところが見つけられているのかなあ。2年後帰国したときウガンダのここがよかったよ、と言えるようになりたいな。日本にいたときは忙しすぎる日本が嫌になるときもあったけど、日本人のまじめさは良いことなんだと思うようになった。外に出て改めて気づく日本の良さ。私が日本で一番好きなのは四季。いよいよ来週から3学期が始まる。気合い入れていこう。【鶴田佳代子】

Kayoko TSURUTA
P.O.Box. 336,
Busia, UGANDA